

自然を監視することは、
人間を監視することなんだ。

いまでは希少種になった野鳥、
ブッポウソウを守るために、
日本財団がしていること。

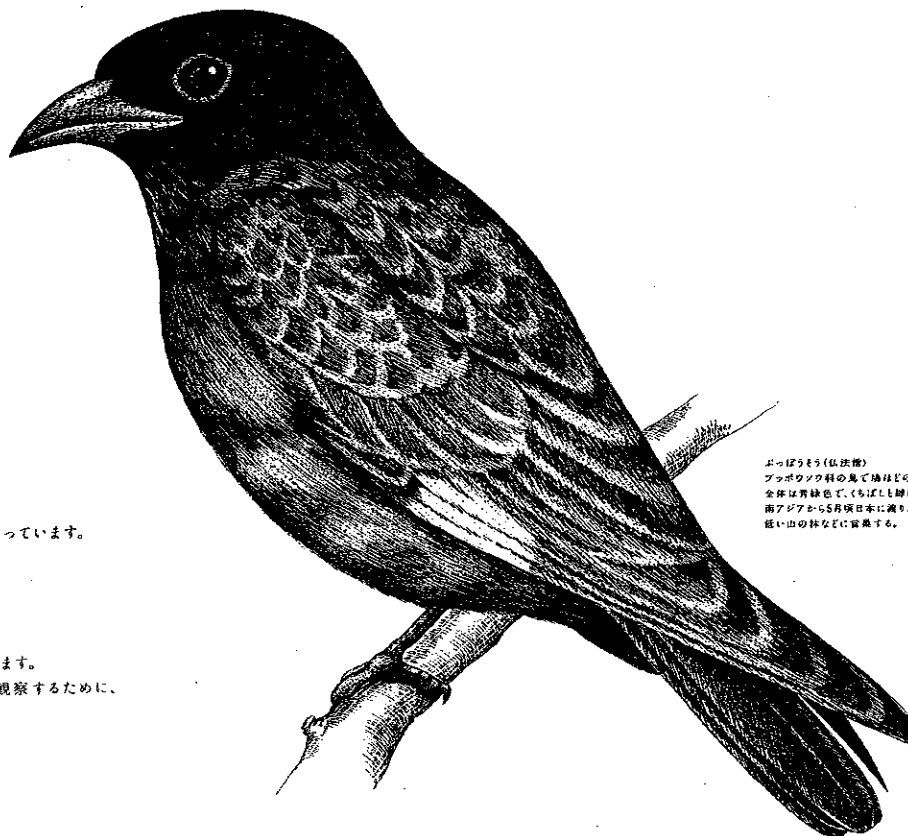
かつては、日本各地の山林でよく見かけたブッポウソウ。
それがいまでは、環境庁のレッドデータブックで
「日本の絶滅のおそれのある野生生物」に指定されるまでになっています。
生態系を考えない森林伐採や土地開発、
鳥が巣を作ることのできないコンクリート製電柱の増加などが、
ブッポウソウから繁殖の場を奪ってきました。

日本野鳥の会・岡山県支部では、
生態調査を行ったり、巣箱をかけたり、地道な活動を行っています。
日本財団では、まだよく知られていないブッポウソウの生態を観察するために、
この4月に監視カメラを寄贈しました。

カメラが見つめるのはブッポウソウ……。でも、その背後には
生態系を破壊してきた人間の営みが見えてきます。

これから産卵の季節を迎えるこの希少種を
守るのも、絶滅へ向かわせるのも、
どちらも人間であることをカメラは教えています。

私たちの活動資金は、發票の売り上げの3.3%によってまかなわれています。



ぶっぽうそう(仏来種)
ブッポウソウ科の鳥で鳩ほどの大きさ。
全体は青緑色で、くちばしと脚は赤色。
南アジアから5月頃日本に渡り、
低い山の林などに留まる。